

## 第1回 長良川河口堰合同会議準備会（平成24年7月24日）における座長・委員発言要旨

稲垣座長	愛知県長良川河口堰最適運用検討委員会		長良川河口堰の更なる弾力的な運用に関するモニタリング部会	
	小島委員	蔵治委員	関口委員	松尾委員
<p>●合同会議を早く立ち上げることが自分の役目であり、そのために必要な資料を検討しなければいけない。</p> <p>●新たな運用（開門調査）をした方がよりメリットがあるという資料を提示して関係機関や第三者の理解を得る必要がある。デメリットも明らかにする。そういう資料を作るためにどうしたら良いか議論する。</p> <p>●論点整理としては、環境問題と塩害問題と治水・利水の3つがあるが、まずは、一番大きな問題である環境問題と塩害問題をきちっと整理したい。</p> <p>●開門してみなければ判らないというのは無責任。調査をやってもある程度問題は生じないというものを出不さないと事業部局はついてこない。</p> <p>●開門調査に当たって、ある程度メリット、デメリットがあるということで、合同会議で議論できればよいが、準備会の役割をどのように位置付けるか。関係機関が多く、準備会で決めても、蹴られるかもしれないので、改めて整理する。関係機関とも意見交換したい。</p>	<p>●環境、治水、利水、塩害等の論点があるが、中身に入ると合同会議になってしまう。それは準備会の役割ではない。</p> <p>●開門調査は開門ではない。その前段の調査。今事業者が行っている弾力的な運用と開門調査のデータを比較してよりよい運用ができるのではないか。</p> <p>●いろいろな開け方があるので、そこから得られたデータと弾力的な運用のデータをつき合わせて次のステップに行けばよいのではないか。</p> <p>●開門調査によって期待される効果をもう少し明確にしないといけない。作業は進めているが、準備会でどこまでやるか。合同会議でどこまでやるか。仕切りが必要。</p> <p>●開門調査によって環境がよくなるということが明らかでないとの議論があり、そこが明らかでないとな国も困るだろう。開けて悪くなるという議論もあるので一つずつ潰す。</p> <p>●関口氏の意見は、PTあるいは専門委員会の議論そのもの。見解の相違はそのままになっている。</p>	<p>●調査というのは実験の提案。実験を試してみなければどうしても分からないことがある。シミュレーションやデータ収集では限界があるということを専門委員会報告書で整理していると理解している。その実験をやることに対して、実験すらいけないという意見があるので、そのギャップの調整（が合同会議）という理解。</p> <p>●愛知県の委員会で足りない論点はモニタリング部会のほうから追加するなどして論点を固めていけばいいのではないか。</p> <p>●愛知県の委員会で検討を始めているが時間がかかる。できるだけ早く合同会議をスタートさせたいので、段階的にやるしかないのではないか。</p>	<p>●はじめから開門ありきではなく、開門するかしないかも含めて、そういう問題を扱うために、準備会が出来たと理解している。</p> <p>●中部地整は専門委員会報告書に反論している。合同会議の最初のステップで、この報告書に対して地整から反論してもらい相違点を明確にして、それを踏まえたくて開門調査が必要なのか、その理由は何かな等を整理し、議論すべき。やってみなければ判らないでは怖すぎる。</p> <p>●報告書に対して地整に反論してもらい、どこの意見が不一致なのかを把握して、利水も治水も絡んで論点整理しないと関連ある整理が出来ない。意見のどこが違うのかをお互いに認識することが必要。</p> <p>●国側も認識を共有しないと合同会議でも議論が進まない。一致、不一致を整理して開門調査するとどういったメリット、デメリットがあるのか整理する。</p> <p>●一致、不一致を合同会議でやれば、ものすごく時間が掛かる。別途やるべき。開門調査のメリットデメリットを検討する過程で、環境や利水の問題もかわってくるというやり方もあるかと考える。</p>	<p>●準備会は、合同会議を行うための論点整理とか運用をどうするかを議論して、国、水機構、岐阜県、三重県に合同会議の開催を提案していくための会議と認識。</p> <p>●開門調査云々の前に、去年のPTを受けて、さらにどのような問題が残っているのか、どこが論点になっているのかをまず整理して、合同会議をやるとすれば、その課題あるいは論点の中でどこに焦点を絞っていくのかという議論をしたほうがよい。まず、環境と塩害に絞ったほうがよい。</p> <p>●開門調査のメリット、デメリット、その中身については、この場では議論することではない。やるとすれば合同会議。よりよい方向に進めるためにどのような論点、方法でお互いに理解しあって、合同会議を進めていくかを、この準備会で議論すればよい。</p> <p>●論点を絞ってスタートさせて次の段階で例えば開門調査をやるメリット、デメリット、意義等が合同会議で明らかになってきた段階で、それが利水、治水とどう絡んでくるか、そういったことを次のステップとして、こういうメリットはあるけど、利水面を考えればこれは許容範囲なのかどうかとか、そういったところは次のステップとして議論を進めていったらよい。</p>